



令和5年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について

令和5年11月
江別市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	17	922
中学校	第3学年	8	847
合計		25	1,769

3 調査の内容

(1)教科に関する調査 (国語、算数・数学、英語)	出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 調査問題では、上記①と②を一体的に問う。
(2)質問紙調査	・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等 ・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等

4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

5 調査期日

令和5年4月18日(火)

6 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえる必要がある。

II 結果の概要

1 教科に関する結果の概要

- 小学校6年生は、国語・算数ともに全道・全国平均を上回っています。
- 中学校3年生は、国語・数学・英語ともに全道・全国平均を上回っています。

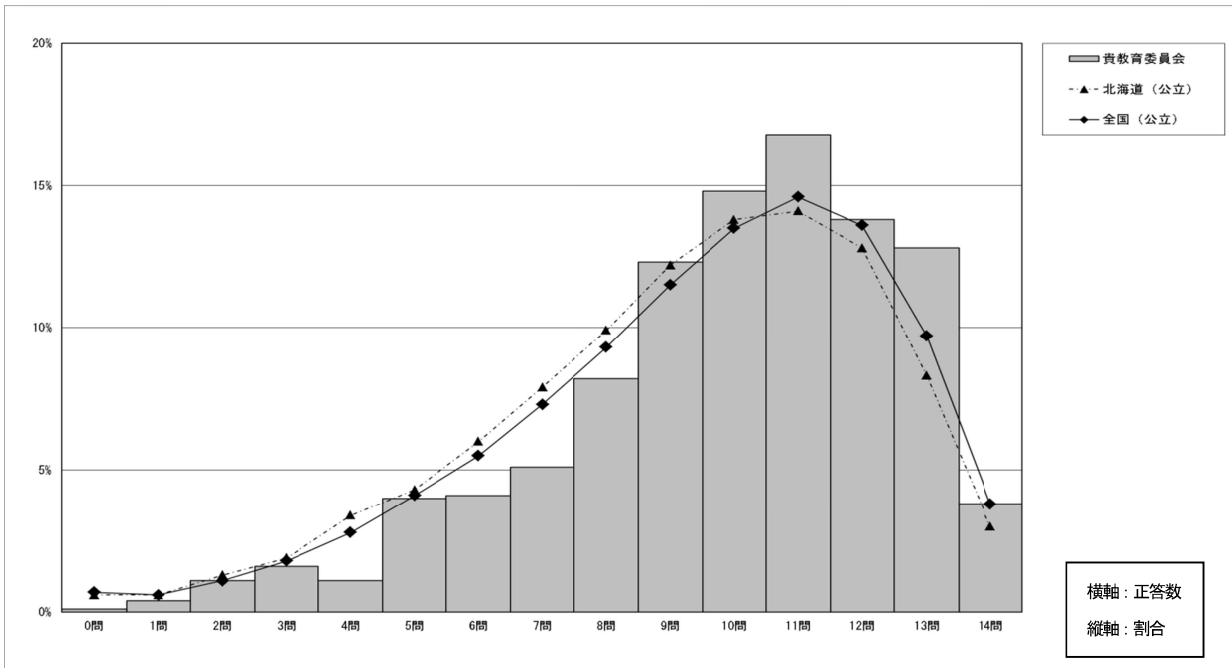
2 質問紙調査に関する結果の概要

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校、中学校ともに100%(中学校は3年連続100%)で、全国平均を上回りました。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 「自分にはよいところがあると思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回り、子どものよさを認める声かけを行うなど、各学校で行われている自己肯定感を育む取組の成果が表れています。
- 「ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り(中学校は3年連続100%)、ICT機器を活用した授業が積極的に行われています。
- 「昨年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した」割合は、小学校、中学校ともに100%で、全国平均を大きく上回り、今年度から始まった小中一貫教育の柱の一つである「一貫した指導」の充実に向けた取組が進められています。

Ⅲ 各教科の結果

1 小学校 「国語」

〈正答数分布グラフ〉



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
江別市教育委員会	922	9.9 / 14	70.4
北海道(公立)	35,645	9.2 / 14	65.8
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
全体		14	70.4	65.8	67.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.6	69.7	71.2	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	63.7	61.8	63.4	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	76.8	72.0	72.6
		B 書くこと	1	28.2	23.5	26.7
		C 読むこと	3	74.1	69.7	71.2
評価の観点	知識・技能	7	72.2	67.4	68.9	
	思考・判断・表現	7	68.7	64.1	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	76.2	72.5	73.6	
	短答式	2	70.0	60.1	62.7	
	記述式	3	53.5	49.2	51.1	

〈結果〉

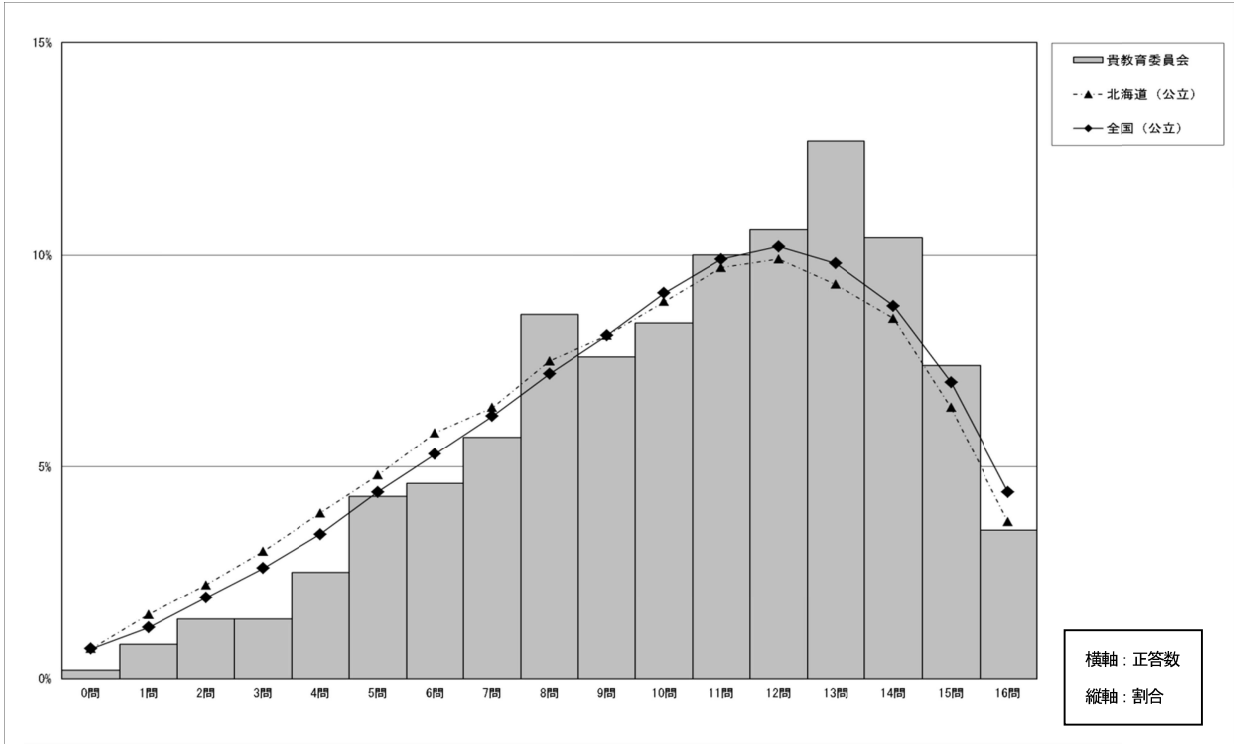
- 平均正答率は70.4%で、北海道を4.6ポイント、全国を3.2ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別平均正答率及び評価の観点別平均正答率は、すべての項目で全道・全国平均を上回っています。

〈正答率の低い設問及び学習指導の改善点〉

- 「自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができる」

いくつかの資料からわかることを、指定された文字数で書くことができよう指導することが大切です。普段の授業の中で、条件作文を書く機会を設けていく必要があります。

2 小学校 「算数」 〈正答数分布グラフ〉



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
江別市教育委員会	922	10.4 / 16	65.1
北海道(公立)	35,657	9.8 / 16	61.0
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)
	全体	16	65.1	61.0	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	69.1	64.4	67.3
	B 図形	4	51.0	48.7	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	73.6	69.0	70.9
	D データの活用	3	68.8	63.9	65.5
評価の観点	知識・技能	9	69.9	65.6	67.2
	思考・判断・表現	7	58.9	55.0	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	62.3	56.5	57.7
	短答式	7	76.1	72.7	74.7
	記述式	4	49.3	46.0	47.3

〈結果〉

- 平均正答率は65.1%で、北海道を4.1ポイント上回り、全国を2.6ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別平均正答率及び評価の観点別平均正答率は、すべての項目で全道・全国平均を上回っています。

〈正答率の低い設問及び学習指導の改善点〉

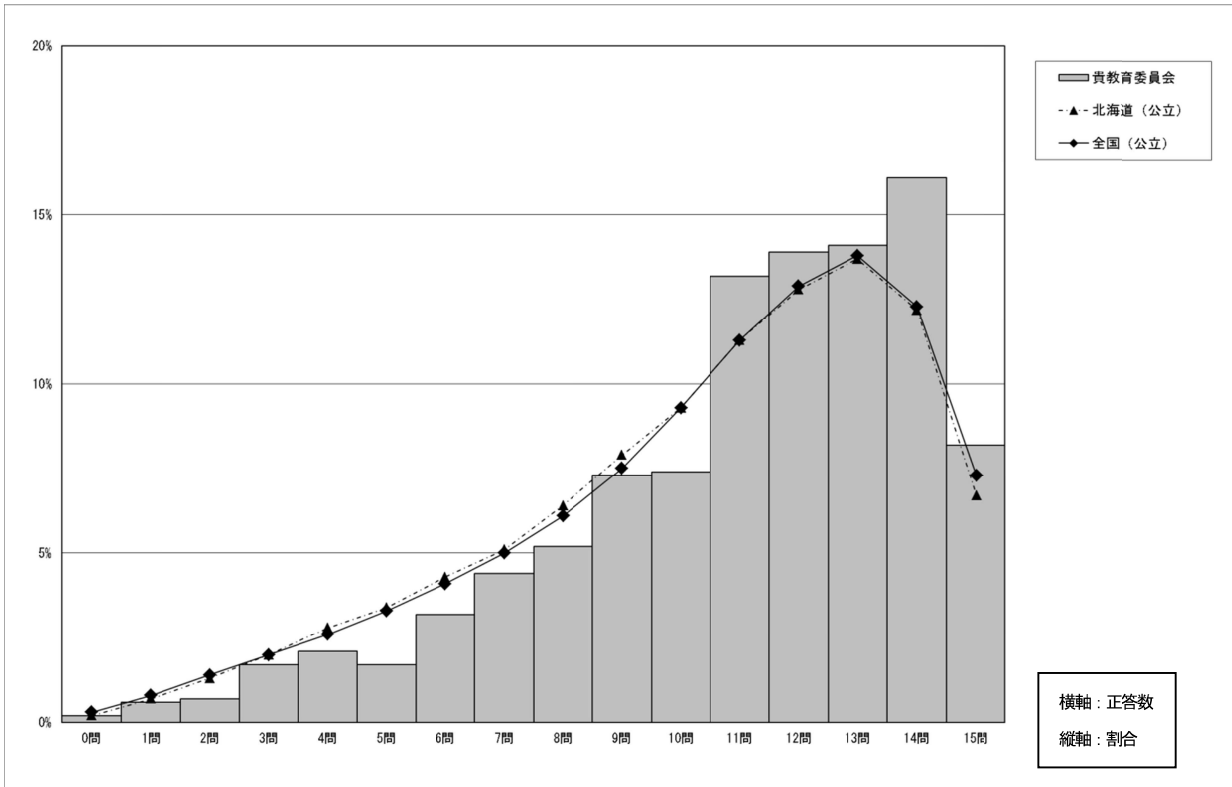
■ 「正三角形の意味や性質について理解している」

図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質について考察し、示された図形の角の大きさを求めることができるようにすることが大切です。

■ 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」

二つの三角形の面積の大小を判断するために、平行な二つの直線の幅は何処でも等しいことに着目し、示された三角形の底辺と高さを適切にとらえることが必要です。

3 中学校 「国語」 〈正答数分布グラフ〉



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	846	11.0 / 15	73.3
北海道 (公立)	34,256	10.4 / 15	69.4
全国 (公立)	892,738	10.5 / 15	69.8

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体			73.3	69.4	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.7	66.4	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	69.1	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.4	74.5	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	82.2	81.8	82.2
		B 書くこと	68.0	62.1	63.2
		C 読むこと	67.7	63.3	63.7
評価の観点	知識・技能	73.7	69.1	69.4	
	思考・判断・表現	72.6	69.2	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	7	76.0	73.1	73.1
	短答式	4	71.1	65.3	65.6
	記述式	4	70.7	66.9	68.0

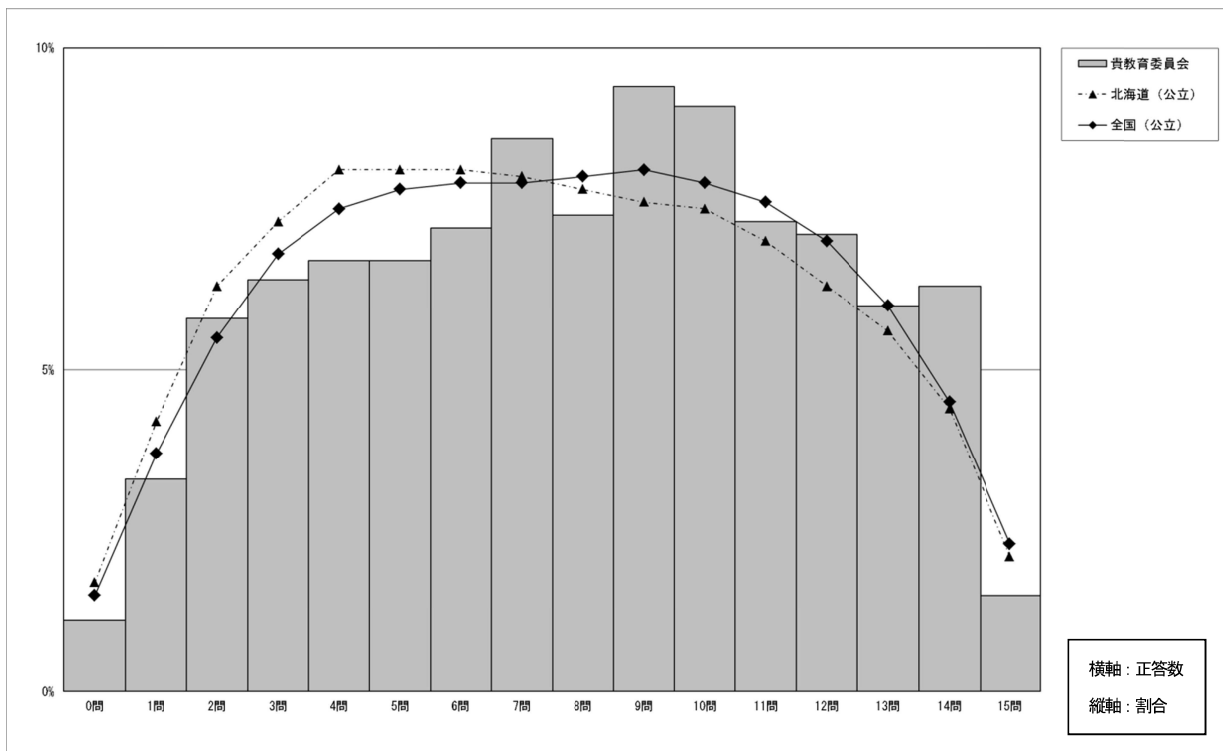
〈結果〉

- 平均正答率は73.3%で、北海道を3.9ポイント、全国を3.5ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別平均正答率及び評価の観点別平均正答率は、「話すこと・聞くこと」が全国平均と同様でしたが、他の項目は全道・全国平均を上回っています。

〈正答率の低い設問及び学習指導の改善点〉

- 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる」
自分の考えを、根拠を明確にして説明することが求められています。そのためには、普段の授業の中で、説明する場面などを多く取り入れていく必要があります。

4 中学校 「数学」 ＜正答数分布グラフ＞



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	847	7.9 / 15	52.5
北海道 (公立)	34,259	7.4 / 15	49.3
全国 (公立)	893,114	7.6 / 15	51.0

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体	15	52.5	49.3	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	65.5	61.7	63.0
	B 図形	3	36.1	32.9	33.2
	C 関数	4	53.7	49.7	51.2
	D データの活用	3	45.7	44.5	48.5
評価の観点	知識・技能	10	57.6	54.4	55.7
	思考・判断・表現	5	42.4	39.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	49.0	45.3	45.3
	短答式	6	63.3	60.4	62.6
	記述式	5	42.4	39.1	41.6

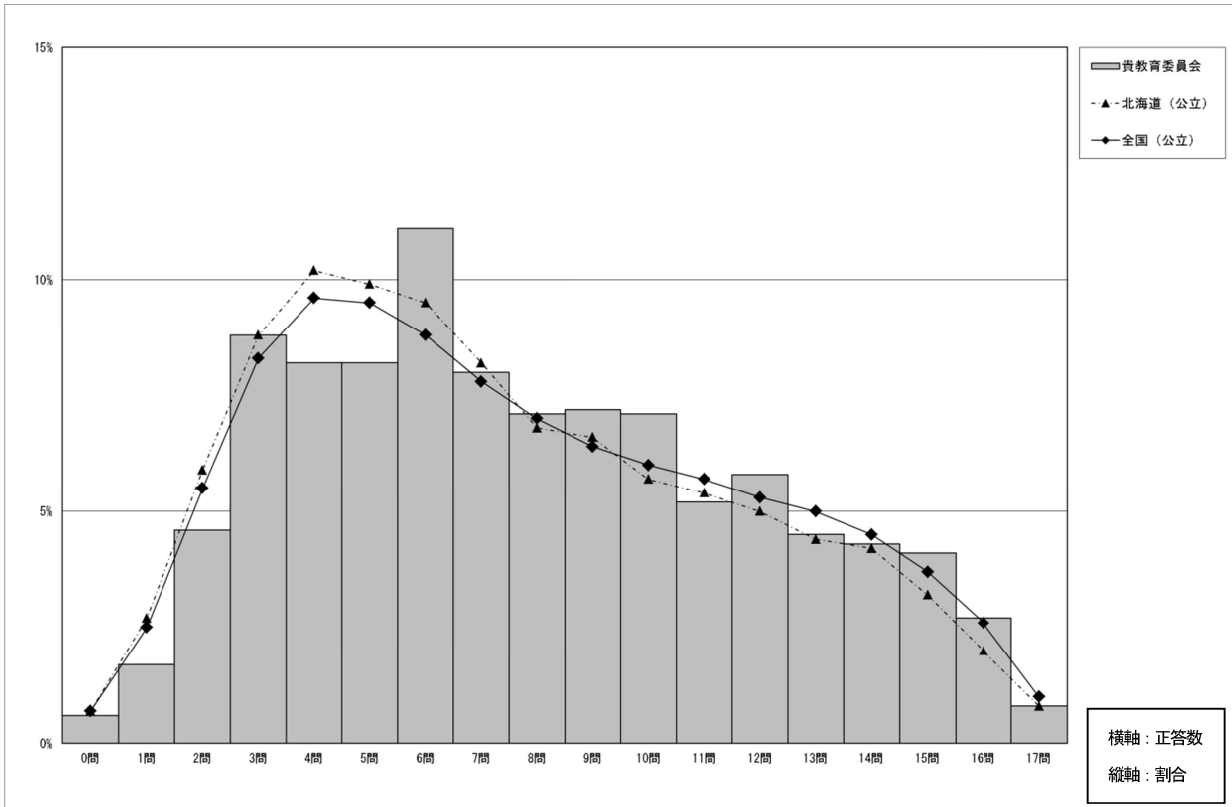
＜結果＞

- 平均正答率は52.5%で、北海道を3.2ポイント、全国を1.5ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別平均正答率では、「データの活用」が2.8ポイント全国平均を下回りましたが、その他の内容別平均正答率及び評価の観点別平均正答率は、全道・全国平均を上回っています。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

- 「図形の性質を考察する場面において、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解する」
身の回りにある事象から、空間において平面が1つに決まるための条件 (例: カメラの三脚など) を見だし、実感を伴って理解することが大切です。
- 「複数の集団のデータの分布の傾向を比較してとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」
ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際には、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にしたうえで、その根拠に基づき説明することが大切です。

5 中学校 「英語」
 <正答数分布グラフ>



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	845	7.9 / 17	46.5
北海道 (公立)	34,242	7.5 / 17	43.9
全国 (公立)	893,528	7.7 / 17	45.6

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体	17	46.5	43.9	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	60.3	58.1	58.4
	(2) 読むこと	6	53.5	48.7	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	4	12.4		14.5
	(4) 話すこと [発表]	1	3.3		4.2
	(5) 書くこと	5	21.7	21.1	23.4
評価の観点	知識・技能	9	51.8	49.5	51.5
	思考・判断・表現	8	40.7	37.6	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	56.9	53.4	54.8
	短答式	3	26.0	27.4	30.1
	記述式	2	15.4	11.8	13.5

<結果>

- 平均正答率は46.5%で、北海道を2.6ポイント、全国を0.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別平均正答率では、「聞くこと」「読むこと」が全道・全国平均を上回りましたが、「話すこと(やり取り)」が2.1ポイント、「話すこと(発表)」が0.9ポイント、「書くこと」が1.7ポイント全国平均を下回りました。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる」
 まとまりのある文章を書くには、文章構成を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要です。また、読み手を意識した、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫することも必要です。
- 「文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことができる」
 正確に書くためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要です。

IV 質問紙調査の結果

1 「児童・生徒質問紙」

(1) 生活習慣

① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	94.3	0.7	93.9	0.4
中学校3年	88.8	-3.3	91.2	-2.4

② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	81.2	0.7	81.0	0.2
中学校3年	76.6	0.1	78.0	-1.4

朝食摂取について、小学校6年生は昨年度及び全国平均を上回りましたが、中学校3年生は昨年度及び全国平均を下回りました。また、就寝時刻について、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度とほぼ同程度の結果でしたが、中学校3年生は全国平均をやや下回りました。

子どもたちが夢や目標を実現し、将来自立して生きていくためには、規則正しい生活習慣を身に付けることが大切です。子どもの生活リズムの向上のため、学校、家庭、地域等が連携して改善に向けた取組をさらに充実させる必要があります。

(2) 学習習慣

① 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	81.3	0.1	70.7	10.6
中学校3年	55.2	-2.2	55.0	0.2

② 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾、家庭教師、インターネットでの学習の時間も含む)

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	64.6	-6.0	57.1	7.5
中学校3年	60.8	-1.6	65.8	-5.0

「自分で計画を立てて勉強している」割合は、小学校6年生は全国平均を10.6ポイントも上回りましたが、中学校3年生は全国平均と同様で、昨年度をやや下回りました。また、「平日に学校の授業以外に1時間以上勉強する」割合は、小学校6年生は全国平均を大きく上回りましたが、中学校3年生は全国平均を下回りました。昨年度と比べると小学校6年生、中学校3年生ともに下回っており、計画的に家庭学習が行われるよう保護者への呼びかけや児童生徒への指導を工夫していく必要があります。

(3) 自己肯定感

① 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	85.8	8.8	83.5	2.3
中学校3年	81.0	3.0	80.0	1.0

② 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	81.8	4.8	81.5	0.3
中学校3年	64.9	-1.1	66.3	-1.4

自己肯定感については、小学校6年生、中学校3年生ともに、昨年度及び全国平均を上回りました。特に小学校6年生は、昨年度を8.8ポイント上回りました。また、将来の夢を持っている割合は、小学校6年生は昨年度及び全国平均を上回りましたが、中学校3年生は昨年度及び全国平均を下回りました。市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見つけて伝えたり、集団における所属感や成就感を高めたりする取組を進めています。今年度から全市で導入されている小中一貫教育における小中学校間での交流や、活動や成果を蓄積して記録するキャリアパスポートの充実など、自己肯定感や自己有用感の醸成に継続して取り組んでいく必要があります。

(4) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取り組み

① 学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	84.8	2.4	81.8	3.0
中学校3年	82.5	5.3	79.7	2.8

② 授業で課題の解決に向けて、自ら考え、自分から「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	82.6	4.8	78.8	3.8
中学校3年	81.8	2.5	79.2	2.6

③ 授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを「工夫して発表している」、「どちらかといえば、工夫して発表している」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	64.5	3.6	63.7	0.8
中学校3年	55.3	-3.6	62.1	-6.8

「話し合い活動の中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」割合及び「課題解決に向け自ら考え、取り組んでいる」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度及び全国平均を上回りました。また、「話の組み立てを工夫して発表している」割合は、小学校6年生では昨年度及び全国平均を上回り、中学校3年生では昨年度及び全国平均を下回りました。

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。特に対話的な学習については、自分の考えをまとめたり、相手の考えを理解したりすることにより、工夫した発表や深い学びに結びつきます。今後も引き続き対話を取り入れた授業を構築し、改善を図っていく必要があります。

(5) 社会に対する興味・関心

① 新聞を「ほぼ毎日」読んでいる。

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	3.9	-1.4	4.3	-0.4
中学校3年	3.6	0.6	2.5	1.1

② 今住んでいる地域の行事に「参加している」、「どちらかといえば、参加している」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	52.9	9.2	57.8	-4.9
中学校3年	29.9	-2.7	38.0	-8.1

③ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	79.4	29.9	76.8	2.6
中学校3年	61.0	19.8	63.9	-2.9

「新聞をほぼ毎日読んでいる」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度同様4%以下と低くなっています。インターネットの普及及び新聞をとっていない家庭の増加がその要因として考えられます。

「地域行事への参加」については、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度及び全国平均を下回りました。新型コロナウイルス感染症の影響による地域行事の中止や参加自粛が影響していると考えられます。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」については昨年度を大きく上回りました。なお、昨年度の質問は「地域や社会をよくするためにすべきことを考えることがある」でした。前年度比が大きかったのは設問の「思う」と「考える」のニュアンスの違いの影響だと考えられます。

今後も地域の行事に参加すること等を通して、自分の住んでいる地域に関心をもたせ、社会に開かれた教育課程の実現を図っていく必要があります。

(6) 思いやり

① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	91.9	1.4	82.6	9.3
中学校3年	86.4	-0.2	80.3	6.1

② 人が困っているとき進んで助けている。「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	92.5	3.6	91.6	0.9
中学校3年	89.0	2.2	88.1	0.9

③ 人の役に立つ人間になりたい「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	97.2	2.6	95.9	1.3
中学校3年	93.9	-0.7	94.6	-0.7

「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回りました。今後も各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動等を継続し、いじめを許さない環境づくりをするとともに、早期発見・早期解決のため、いじめの積極的認知を進めていく必要があります。また、「人が困っているとき進んで助ける」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均とほぼ同程度ですが、昨年度を上回りました。

「人の役に立つ人間になりたい」割合は、小学校6年生は、昨年度及び全国平均を上回りましたが、中学校3年生は、昨年度及び全国平均とほぼ同程度となっています。

人への思いやりや規範意識を育むため、特別の教科道徳を中心に、学校の教育活動全体で道徳教育を推進していくことが大切です。

(7) 読書習慣

① 学校の授業時間以外に、「平日、1日30分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	40.1	2.1	37.3	2.8
中学校3年	31.7	5.3	28.4	3.3

「平日に30分以上読書する」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回りました。特に中学校3年生は、昨年度5.3ポイント上回りました。

各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書室の整備など読書環境の充実が図られています。児童生徒の読書習慣の定着が図られるよう今後も継続していく必要があります。

2 「学校質問紙」

(1) 学習規律

① 調査対象学年について、授業中の私語が少なく、落ち着いていると「思う」「どちらかといえばそう思う」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	100.0	5.7	87.6	12.4
中学校3年	100.0	0	95.1	4.9

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに100%（中学校3年生は3年連続）で全国平均を上回り、江別市の小・中学校は非常に落ち着いた状態にあると言えます。

各学校においては、姿勢や態度、聞き方や話し方、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律が丁寧に指導されています。また、どの中学校区においても、小中共通の学習や生活に関するスタンダードが確立されており、9年間の一貫した指導が行われています。

(2) 家庭学習

① 調査対象学年について、家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた(教科共通)「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	100.0	0	95.7	4.3
中学校3年	100.0	0	90.9	9.1

家庭学習の取組として、「家庭での学習方法等を、具体例を挙げながら教えた」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年同様100%となりました。

江別市の各小中学校では、学習内容を確実に定着させるために、家庭と連携を図りながら学習方法を具体的に指導し、家庭における学習の習慣化を図る取組が推進されています。

(3) ICT機器を活用した授業

① 学校全体で、教員がICT機器を活用した授業を「ほぼ毎日」行った

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校	88.2	-5.9	72.7	15.5
中学校	100.0	0	71.8	28.2

② 調査対象学年について、児童生徒が、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で「ほぼ毎日」活用した。

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	88.2		65.2	23.0
中学校3年	87.5		62.6	24.9

タブレットやプロジェクター、電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っています。

江別市ではICT機器を活用した学習の推進を図るため、令和2年度から多機能型大型ディスプレイ(電子黒板)をはじめ、タブレット端末の全学年配置、各学校のネット環境の改善等を進めてきました。各小中学校では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、ICT機器を効果的に活用した授業を積極的に推進しています。

(4) 学校運営

① 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を、「よく行った」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校	82.4	5.9	39.2	43.2
中学校	100.0	42.9	35.4	64.6

「教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を行っている」割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を大きく上回っています。

江別市の小中学校では、全国学力・学習状況調査や江別市学力調査(NRT)等の結果を分析し、児童生徒の実態に合った教育課程を編成しており、「計画(Plan)ー実行(Do)ー評価(Check)ー改善(Action)」の一連のサイクルによって学校改善及び授業改善を図る取組を継続して行っています。

(5) 全国学力・学習状況調査の活用

① 令和4年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するための活用を「よく行った」「行った」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校	100.0	0	96.0	4.0
中学校	100.0	0	93.0	7.0

「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」割合は、小学校、中学校ともに昨年同様100%となり全国平均を上回っています。江別市の小中学校では、学校が一つのチームとして学力向上の取組を継続して行っています。

(6) 小学校教育と中学校教育の連携

① 令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校	100.0	76.4	3.6	46.4
中学校	100.0	57.1	54.7	45.3

「令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した」割合は、小学校、中学校ともに100%となり、全国平均を大きく上回っています。

江別市の小中学校では、今年度から全面実施となった小中一貫教育により、各中学校区での小中交流を計画的に行っています。その中で、学力における共通課題等を明確にし、子どもたち一人一人の学力の向上に向けての取組が進められています。

(7) 家庭や地域との連携

① 前年度、保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に「よく参加している」「参加している」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校	94.2	0	95.9	-1.7
中学校	87.5	16.0	82.1	5.4

② ①の保護者や地域の人との協働による取組は、教員の負担軽減に効果があった「そう思う」「どちらかといえばそう思う」

	令和5年度結果(%)	令和4年度比	全国平均(%)	全国比
小学校	88.2		78.8	9.4
中学校	87.5		60.7	26.8

「保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に参加している」割合は、小学校では全国平均を下回っていますが、中学校では昨年度及び全国平均を上回っています。

また、「地域の人との協働により、教員の負担が軽減した」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回りました。江別市の小中学校では、「特色のある学校づくり」として、地域の特性を踏まえて取組実践項目を掲げ、教育関係者、地域・保護者が協力し合い、教育活動の充実を図る取組を推進しています。また、江別市の全小中学校に、地域に住んでいる退職教員など、教員免許を持つ学習サポート教員を配置し、複数の教員が指導するチーム・ティーチングや長期休業中・放課後に補充的な学習を行い、基礎学力の定着に大きな役割を果たすとともに、教員の負担軽減にもつながっているとと言えます。

参考引用文献

令和5年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 (国立教育政策研究所教育課程研究センター)